



岡田理子 「春の予感 ガーベラのある風景」F8（水彩）

<作者コメント>

もう少し明暗を強調して空気感が出せたら良かったと思います。ガーベラのもっと繊細な軽やかさが出せたらと思いました。

<喜田コメント>

今月はおとなしい作品ですね。色彩も構図も無難にまとめた感じがします。卓上の敷物のストライプと背景の変化がわずかに観る者に面白さを伝えてくれますが、岡田さんの作品にしては物足りません。本来岡田さんの作品は観る者にもっと訴える力あります。作品の中心が「4輪のガーベラ」なら主役の座をしっかりとガーベラに与えてください。ガーベラは静かな中にも、もっと赤い情熱がある花です。



月川りき江 「マッターホルンの登山電車」 24cmx27 cm (ちぎり絵)

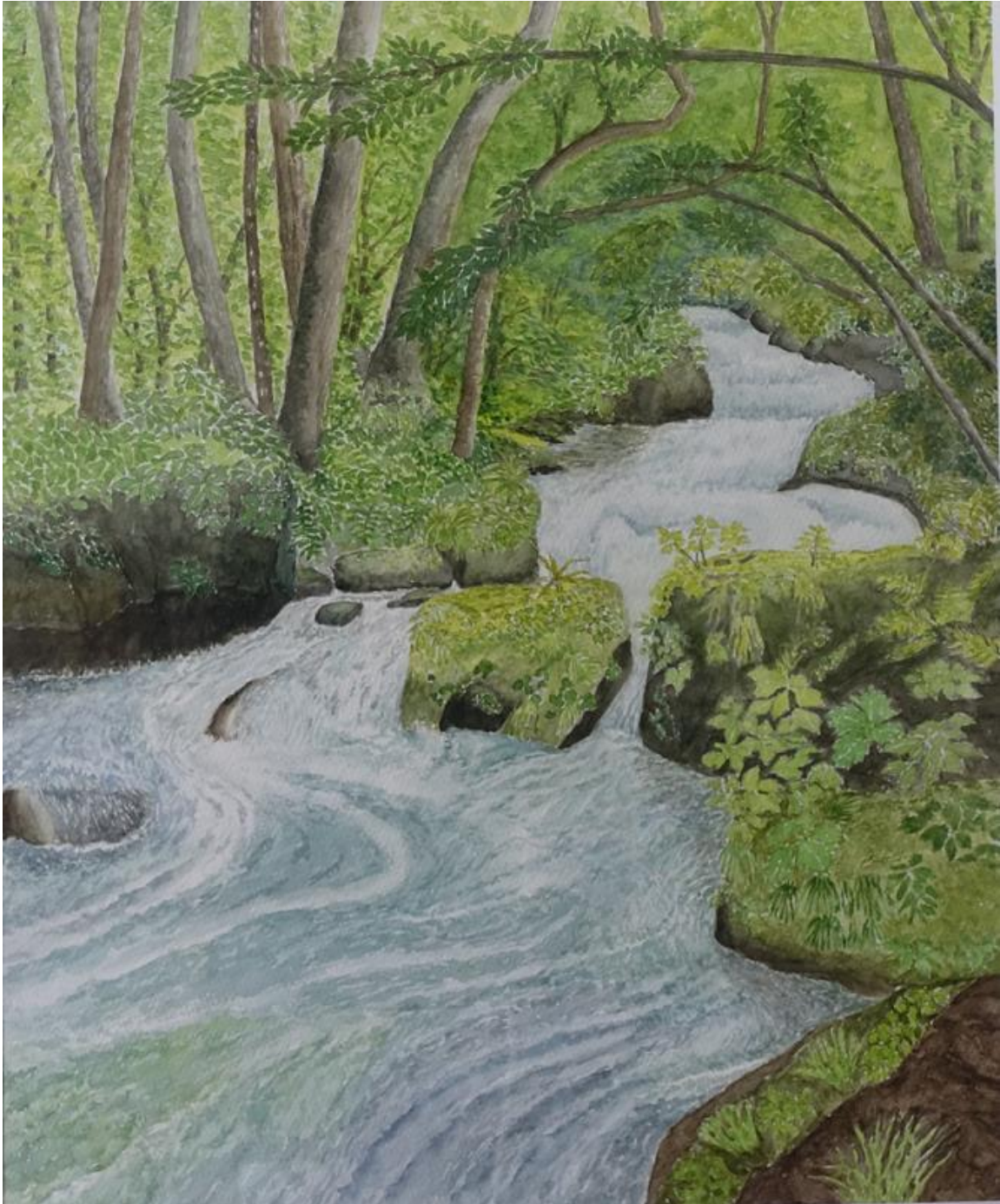
<作者コメント>

娘が、気分を変えて外国に目をむけたら？と言って、スイス、ドイツ、パリなどの写真をもってきました。

まずはスイスをつくりました。雪山が難しかったと言うより、新聞紙に思うような材料がなく、苦労しました。東北地方の冬の温泉街の写真を使いました。

<喜田コメント>

スイスのマッターホルンの登山電車が左上から右下に向かって疾走しています。斜めに切られた画面の上下で全く色調もタッチも異なった作品になっています。氷の山と春のお花畑のコンビネーションに違和感を持つか、それとも面白いと思うかが焦点です。私は面白いと思います。しかし、お花畑の黄色と紫の花はもう少し丁寧に、一貼り一貼り気持ちを入れて変化をつけて貼って下さい。大きな花卉の中に花芯とおしべを貼るだけで随分作品の雰囲気が変わるはずです。新聞ちぎり絵の面白さは、はさみやナイフを使わずに、紙を手でちぎる切り口に面白さと味わいが残ると思います。電車も線路も手でちぎる方が良いと思います。



黒田重雄 「溪流梅霖」 F8 (水彩)

<作者コメント>

梅雨の季節の奥入瀬は水量が多く、また曇り日には光が隅々まで廻って緑の木々がより彩濃く観えます。溪流の岩と苔や木々の緑の明暗の描きわけ、水の流れの動きの描写に注力しました。

<喜田コメント>

梅雨の時期の奥入瀬に私は行ったことがありませんが、この作品、黒田さんらしいとても丁寧で、気持ちのこもった良い作品です。特に水の流れの表現が素晴らしいと思いました。水の流れの中に淡く緑が映っているのは感動的です。また深い緑の新緑の林も丁寧に描けていると思います。出来ることなら、覆いつくす林の中に明暗がもう少しあったらさらに絵画として魅力的です。それは流れる水の表現についても同じことが言えます。



武智康子 「地球の割れ目」 F6 (水彩)

<作者コメント>

8年前主人と最後の海外旅行となったアイスランドでスケッチしたのを、いつか油彩画にしたいと思っていたのですが、マンションでは描けないので、今回思いきって水彩画にしてみました。しかし、崖の厚みの表現が難しく、思ったように描けませんでした。でも、割れ目の凄さは少し描けたかなとも思います。深さは深いところで10メートル程ありました。上から見るとちょっと怖かったです。

<喜田コメント>

このモチーフはご主人様と行かれた最後の旅行で描いたスケッチですね。さぞ、思い出深い風景なのでしょうね。北極圏の厳しい大地のクレバスですね。遠くに広がる大地と山々、北極の空の広がりなど透明で清廉な空気感は十分表現出来ています。

モチーフの中心である、岩山やクレバスの表現が弱いと思います。作者もコメントで言っていますが、もっともっと、重厚でシャープで厳しい表現が欲しいところです。

黒は直接にアイボリーブラックを使わないようにしましょう。黒色は補色を混ぜ合わせて出来た黒色を使いましょう。例えばピュアレッドとビリジャンを混色してできる黒は深みがあります。また、クレムソンレイキとプルシアンブルーの混色でできる黒は冷たさがあります。クレバスの影などは補色同志を混色して作る黒やグレーを使って表現しましょう。



筒井隆一 「天使」 F4 (水彩)

<作者コメント>

スペインに住み着いていた高校時代の友が、日本に戻って来た。縦40cm、横30cmのケースに収まった、笛を吹く天使像。現地の教会で求めたと言う。

<喜田コメント>

フルートの名手の筒井さんにふさわしいモチーフですね。
いつも思うのですが、筒井さんの作品は配色が素晴らしいと思います。ケースの中の色は本当に気持ちの籠った複雑な色彩で、これを見るだけでフルートの音色が聴こえてきそうです。礼拝堂の後ろの壁は赤紫ですが、光と影の屈折で出来る色彩は複雑です。この変化がとても良いと思います。しかし、天使は天使らしくありませんね。もう少し天使らしく描けるといいのですが、。サザエの殻に挿した白い椿は、先月の大徳利に挿した一輪の白い花同様、場違いではありますが、天使の白と響き合って面白い構成です。この配置は成功だったと思います。筒井さんの作品はだんだん面白くなります。楽しみです。



竹前義博 「檜町公園の新緑」 F6 (水彩)

<作者コメント>

題材を求め家の周りを散策しましたが、この時期はまだ葉のない樹々ばかりで、納得の行く題材は見つからず。そこで、近くの公園の風景を新緑の頃を想像しながら絵にしました。想像で絵を描く、作るのも楽しい。

<喜田コメント>

季節を変えて一つの風景を何枚も描く、というのは良い勉強になります。また、制作に大事な想像力を研磨することが出来て絵描きはよくやることです。

この作品、冬場の風景から新緑の季節を想像して絵にしました。良い試みだと思います。命芽生える新緑の公園。緑の中の広場にシートを敷いて家族がピクニックしています。ワクワクします。遠くに都会のビルが見えてその上に都会の空が広がっています。そういう都会の景色ですね。大変よく描けていますが、一口で言うと、空の青が少し重いです。この作品をさらに良くするために、①この絵は緑が中心ですから、もっともっと緑が複雑で多様でない面白くありません。②また、池の水はもっと濃く、③木々や空や灯籠や岸辺の岩がもっと水面に映り込んでいた方が作品として面白いと思います。⑤そして、空はもっと淡い春の空にした方が良いと思います。⑥遠くに見える都会のビルは前回の反省を生かして輪郭線を弱めて、柔らかく大変面白く良く描けています。一塊の赤い木が効いていますね。



遠矢慶子 「薔薇、ばら、バラ」 F10 (油彩)

<作者コメント>

大好きな真っ赤を思う存分使いました

<喜田コメント>

大輪のバラを説明的でなく色彩とマチエルで表現しているこの作品はとても素晴らしいと思います。赤い薔薇の背景に同系色のバーミリオンを持ってきたところもスゴイです。これは左の花瓶のバラが右の鏡に映っているのでしょうか？それとも右に黄色い薔薇を挿した第2の花瓶があるのでしょうか？ まあ、どちらでもよいのですが、鏡に映った薔薇と考えた方が面白いですね。花瓶と花瓶の間の縦方向の黒い線、花瓶の下の横方向の黒い線が変化と調子を整えていて面白い。鏡に映っているのであれば黄色のバラが強すぎます。



若林哲史 「駅ピアノに飛び入りお嬢」 F6 (水彩)

<作者コメント>

地下鉄センター南駅に駅ピアノ登場。そこからテーマ頂きました。
常連セミプロピアニストにレッスン帰りの少女が、踊りを併せる

<喜田コメント>

駅ピアノという15分のTV番組があります。そんな着想を絵に出来る若林さんの想像力に敬意を表します。駅ピアノを舞台に、常連のピアニストとレッスン帰りの少女のちょっとした物語が素敵です。

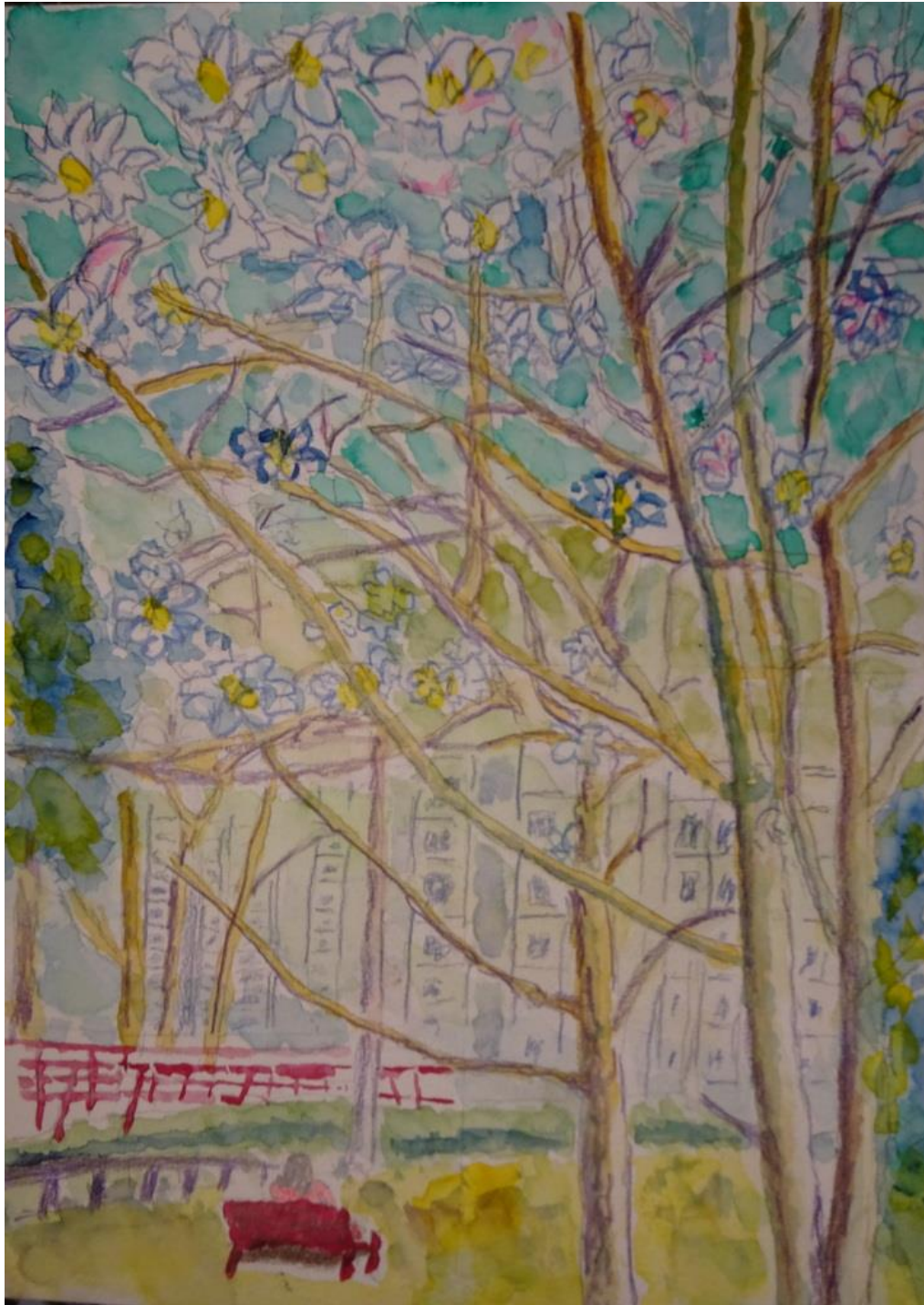
主題はピアノ弾きと少女です。駅の通路を通り過ぎる旅人の姿はあくまで背景です。

そのような眼でこの作品を観ると、主人公のダンスをする少女にもう少し焦点を当てて描きたいですね。右下の広い空間は音やリズムが貯まる空間ですね。

ピアノ弾きの後姿からピアノが聴こえてきて、踊る少女の姿からステップのリズムが聞こえてくるにはもう少し表現が足りません。

しかし、先月の小樽といい、今回の駅ピアノといい、若林さんの表現世界が見えるような気がします。

この作品に着想賞を差し上げたいと思います。



井上清彦 「読書の森公園の白木蓮」 F4 (水彩・色鉛筆)

<作者コメント>

白木蓮は、表現がむずかしく、最後は色鉛筆に頼った。午前中で、空が青かったので、濃い色にしたが、これでも足りなかったか。とにかく、モチーフを決めるのに時間がかかる。

<喜田コメント> 白木蓮の木と花を描くのはなかなか難しいですよ。図書館のある都会の公園の片隅からのスケッチですね。ゴチャゴチャと生い茂った木々の向こうに図書館の建物と窓がみえます。複雑ですがこの構図が面白いです。高く伸びた白木蓮の咲く木々の向こうには図書館の窓と青空が見えます。下方に描いた「赤いベンチと赤い手スリ」がこの作品に命を与えてくれました。良かったです。木蓮の白い花をブルーの色鉛筆で描いた数箇所ところが、不思議なアクセントになって作品を面白くしてくれました。木蓮の花芯に赤・黄色を入れたところは技能賞です。空はもう少しブルーで抜いた方が良いでしょう。



喜田祐三 「シンガポール川・カヴェナ橋」 F15 (油彩)

<作者コメント>

8年も住んで沢山のスケッチをしたシンガポールは、私にとって、色彩や空気の匂いや雑踏の音など、すべてが懐かしくて、目を閉じてもすらすらと絵を描くことができます。

この作品は職場の近くを流れるシンガポール川にかかる 200 年も昔に架けられたカヴェナ橋を思い出して描きました。

使う色の種類を出来る限り減らして、描くことを試みています。また、明暗を鮮明に表現することを心がけています。